

【ロンドンAFP時事】キスの起源が2100万年前にさかのぼり、類人猿やネアンデルタール人も行っていたことを示唆する証拠が見つかった。英オックスフォード大の研究者らが、学術誌に研究結果を発表した。

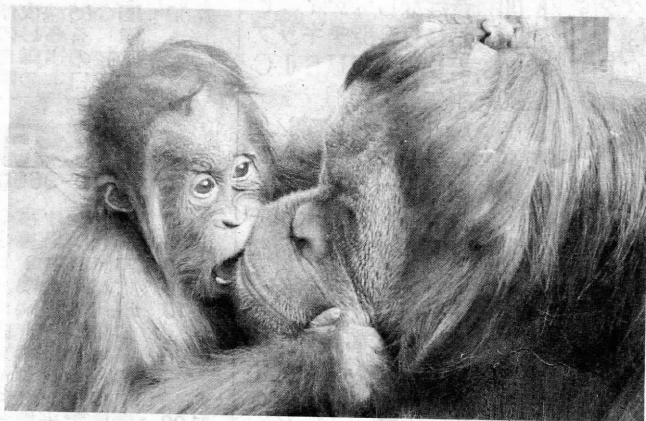
キスという行為は、はつきりとした生殖上や生存上の利点がない一方で、病気感染などのリスクを伴うため、進化論における長年の謎だった。研究者らはチンパンジーやオランウータンなどキス行為が確認された現代霊長類のデータを収集し、さまざまな進化のシミュレーションを実施。「非攻撃的な、

## 最初のキス 2100万年前？

### 英研究 暖取る意味合いも

食べ物の受け渡しを伴わない口と口の接触」が数百万年にわたり受け継がれてきたことや、絶滅したネアンデルタール人が氷河期に暖を取るためにキスを交わしていた可能性があることが分かったという。

同大は声明で、キスは「大型類人猿の古来の習性だった」と指摘。1700万年〜2100万年前に霊長類の祖先の間で発展し、「進化の過程で維持された」としている。これまでの研究で、人類とネアンデルタール人が唾液の交換を通じて口腔内の細菌を共有していたことが分かっている。



キスするオランウータンの親子＝2004年7月、オーストラリア南東部メルボルン（AFP時事）